

# 東海6大学共通テキストと今後の展望について

吉川瑛一\*1・畑隆聖\*2・古村雛乃\*3・溝口貴史\*2

Email: renu-staff@coop.nagoya-u.ac.jp

- \*1: 名古屋大学理学部数理学科
- \*2: 名古屋大学情報学部コンピューター科学科
- \*3: 名古屋大学農学部応用生命科学科
- \*4: 名古屋大学生協新入生サポートセンター センター長

◎Key Words 共通化テキスト, 大学生協, 他大連携

## 1. はじめに

私たちは、名古屋大学生協新入生サポートセンター学生アドバイザーReNU(リニュー)という生協の団体に所属している。(以下、「名古屋大学生協新入生サポートセンター学生アドバイザーReNU」を「ReNU」と省略して称することとする。)

ReNUの活動のひとつとして、生協が販売するPCを購入した新入生を対象としたPC講座を、毎年3~4月に開講している。そして、2018年度から、東海地区の名古屋大学生協・岐阜大学生協・静岡大学生協・三重大学生協・名古屋市立大学生協・名城大学生協の6大学生協が集まり、「大学生協 東海パソコン講座 学生プロジェクト」としてテキスト共通化を試みた。

## 2. ReNUについて

ReNUの活動の主な目的は、学生アドバイザーとして新入生の入学準備のサポートをすることである。

主な活動内容は、生協加入の手続きや教科書の購入方法についての説明、一人暮らしを始める新入生に対する住まいの斡旋、大学生のためのキャリアデザインの講座運営、そしてPC講座の運営である。

ReNUのスタッフは現役の名古屋大学生及び名古屋大学院生で構成されており、2018年の新学期は86人(2018年2月現在)のスタッフで実際の大学生活に基づいたアドバイス・サポートを実施している。

## 3. PC講座の目的

ReNUがPC講座を行う目的は、受講生である新入生がレポートやスライドを効率よく作成できるようになり、一足先に大学生活を知り、もっと楽しい大学生活を送れるようになってもらうためである。

5章で詳しく説明するが、PC講座の製作から資料作成、講座の運営に至るまでのすべてをReNUのスタッフがやっている。そこには以下のような2つの強みがある。

1つに、名古屋大学生として生活していくうえで必要なスキルを提供することができることである。

2つに、3~4月という早い段階で、名古屋大学生の体験談を伝えることができることである。

その結果として、PCに対する苦手を払拭し、PCを使って、より楽しい大学生活を送ってほしいと考えている。

## 4. PC講座概要

### 4.1 構成

PC講座は基礎講座とアドバンス講座の大きく2つの講座から構成され、図1のようになっている。

受講生が初めて受ける講座は、Windowsユーザーのためのセットアップ講座ノーマルコース及びビギナーコース、MacユーザーのためのMac講座である。これらの講座では、主に初期設定やOfficeの設定等を行う。セットアップ講座ビギナーコースは基本コースの内容に、パソコンの用語説明・キーボード操作が追加された講座となっている。

活用講座は、PowerPoint・Excel・Wordの3部構成となっている。PowerPoint編では、自己紹介スライドを作成しながらSmartArtや背景の削除、Excel編では、関数を用いた表・グラフの作成、Word編では、参考文献や文末脚注等、スライド・レポート作成に必要なスキルを学ぶ。また、そもそもプレゼンテーション・レポートとはなにかという新入生の疑問を解決できる講座である。

上記の講座を基礎講座とし、より発展的なことを学びたい人に対してアドバンス講座を用意している。アドバンス講座は、プレゼンスキルアップ講座と理系レポート講座の2種類ある。

プレゼンスキルアップ講座は全学部対象に、活用講座で学んだPowerPointのスキルを基に実際にプレゼンテーションを行う講座である。

理系レポート講座は、理系向けの講座で、大学での実験レポート作成を見据え、ExcelとWordを用いて、実際に実験レポートを作成する講座である。

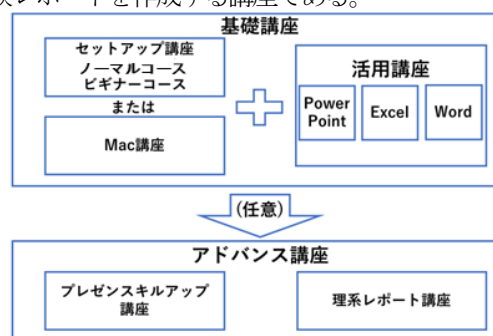


図1 講座受講の流れ

## 4.2 講座全体の概要

PC 講座の会場は1年生が大学生活で主に使用する講義室である。そのため、入学前に大学の講義室の雰囲気を知ることができる。1 教室あたりの受講生の定員人数は、セットアップ講座 48 名、Mac 講座 24 名、活用講座 60 名、理系レポート講座 50 名、プレゼンスキルアップ講座 22 名と異なるが、これらの講座を1 教室当たり、講師 1 人と Teaching Assistant(以下「TA」と称す)数人で運営している。

PC 講座では、実際の操作を通して PC の使い方を学んでもらうことを目的としている。そのため、基本的には講師と同じ操作を受講生が行う操作追従の形式を取っている。講師が使用する PC の画面を講義室のスクリーンに映し、受講生がそれを見ながら講師の説明で操作を行っていく。操作追従の形式だけでは説明が不十分な場面では、スライドを使って説明を行う。

操作追従は知識が定着しやすいという点では良い方法である。しかし、この形式では講師の説明についていけなくなる受講生が出てきてしまう。そこで、こうした受講生のために TA が個別対応でサポートを行っている。TA は他にもタイムキープ等、講座運営の裏方的な役割も持っている。

## 5. 2018 年度 PC 講座運営

### 5.1 組織体系

PC 講座は ReNU のスタッフ全員で運営したが、その中でも PC チームが、以下に述べるコンテンツ作成・スタッフ育成を主に担当した。

PC チームには、PC チームをまとめる PC リーダー・PC 副リーダーと各講座を担当するセットアップチーフ・Mac チーフ・PowerPoint チーフ・Excel チーフ・Word チーフ・プレゼンスキルアップ講座チーフ・理系レポート講座チーフの役割が存在し、2 年生が担当した。また、昨年度各リーダー・チーフを担当した 3 年生が 2 年生のバックアップをする構図となった。1 年生は決まった役職を持たず、2 章で先述した活動全てに関わるようにしたため、PC 講座では主に講師・TA として携わった。

### 5.2 コンテンツ作成

コンテンツ作成は各講座、チーフが昨年度の講座をベースに、主に 5~11 月にかけて作成した。昨年度 PC 講座から改善するための機会としては、昨年度の講座アンケート・他大学生協との PC 講座見学、東海事業連合による各種研修であった。

他大学見学は、4 月に岐阜大学生協及び三重大学生協の講座本番に見学させていただいた。

東海事業連合の研修として、8 月の PC 講座夏研修では各大学生協間で小規模の PC 講座を行い、意見交流をした。9 月のコンテンツ会議では、各大学生協のコンテンツの違いを確認した。10 月の Office 研修・Apple 研修では、生協外部の講師によるスキル紹介で自大学のコンテンツ作成のヒントにし、11 月頃には作成した。講座本番の様子から、これ以降に変更した点はあるが、この時点で講座内容のほとんどすべての内容が完成していた。

### 5.3 スタッフ育成

スタッフ育成として主に練習問題とリハーサルを行った。

練習問題は、講師・TA 問わず、活用講座のアプリ一回分を月一ペースに実施するもので、スタッフの PC のスキルのボトムアップを狙うものだった。

リハーサルは、チーフと講師 1 対 1 でスクリーンを用いず自身の PC で行うリハーサル数回と、スクリーンを用いて行うリハーサルを 1 回行った。前者は、主に PC 講座の流れを理解しているか、操作が正しいかの確認のために行い、後者は、主に講師としての立ち振る舞いや理由づけの確認のために行った。

また、全員ではないが、講師・TA・受講生・オブザーバーを置いたリハーサルも 1 回を行い、本番さながらの状態での緊張感のもと、講師・TA の育成を図った。

## 6. 共通化テキスト

### 6.1 背景

昨年の PC 講座運営の改善点としてスタッフの負担の大きさが挙げられた。スタッフの負担は、「講座準備期の負担」と「講座期の負担」に大別できた。

「講座準備期の負担」はスタッフ間で異なった。5 章 1 項で述べた通り、1 年生が主に講師を務めるため、講座内容や講師としての立ち振る舞い等を講座毎に覚える必要がある。そのため、1 年生にそれなりの負担はある。しかしそれ以上に、各チーフの負担が顕著であった。

チーフがしなければならないこととして、5 章で述べた通り、コンテンツ作成・スタッフ育成・テキスト作成がある。中でも、スタッフ育成とテキスト作成の負担が特に大きい。

スタッフ育成、特に講師育成のためのリハーサルであるが、講座の性質・受講生の人数上、セットアップ講座では 15 名、その他の講座(活用講座は PowerPoint・Excel・Word それぞれ)は、平均 5 名程度の講師を必要とした。リハーサルは一回の講座を通すため、フィードバックを含めて、2~3 時間かかり、それが講師人数分、複数回ある。もちろん、チーフがすべてのリハーサルを見る必要はなく、他のスタッフに頼ることもあるが、他のスタッフにも必ずしも頼れるとも限らない。

テキスト作成も非常に時間がかかっていた。講座中及び講座の復習として使えるよう、講座の流れに沿ったテキストにするため、PC の画面上でスクリーンショットをとり、穴埋めを作成し、説明文を加える。特に活用講座では Windows ユーザー用と Mac ユーザー用それぞれ作成する必要もあった。

また他大学ではスタッフの人数が少なく、テキスト作成に時間を割く余裕もなく、市販のテキストを用いて講座を行っていた。

そこでテキストを東海で共通化することで、負担の軽減、講座品質の均一化を試みた。

### 6.2 作成スケジュール

以下に当初立てたスケジュール(表 1)と、実際のテキスト作成スケジュール(表 2)を記載する。

表 1 当初立てたスケジュール

月	内容
6月	コンセプト決め 方針作成
7月	レイアウト確認 掲載スキルの決定・担当決め 担当別作業
8月	ひな形作成手順の説明 表紙作成方法検討
9月	担当別で作業
10月	最終読み合わせ(ページ確定) 相互チェック・入稿準備 偶数奇数ページ置き換え 原稿校了、入稿へ
11月	完成テキストを元に活用方法を検討 Mac版への置き換え作業
12月	Mac版への置き換え作業 年内入稿完了

表 2 実際のスケジュール

日時	会議の内容
5/28	テキスト統一化メリットデメリット
6/17	テキスト共通化に向けての合意形成 テキスト共通化作業チーム形成
7/8	役割分担の決定 収録コンテンツ用スキル集約結果共有 掲載コンテンツ検討 冊子レイアウトの意見だし
8/23	作成作業
10/7	相互チェック 表記レイアウト統一に関して 表紙について
11/27	誤字脱字のチェック Macテキストの進め方
2月末	入稿

## 7. 作成結果

### 7.1 良かった点

テキストの作成を振り返る。まず良かった点として、6つの大学においてテキストの質を統一できたことがあげられる。これまでは各大学でそれぞれのテキストが作られており、それぞれの特徴がでていたが、品質としてはバラバラであった。

そこで、共通化したことにより品質が均一となりどの大学でも受講生に満足してもらえる内容になった。

また、共通化することで作成の負担を分担できたことがあげられる。

一つのテキストの作成を6大学で行ったため、作成に動員できる人材も増えた。また校正をする人数も増えたことで、大きなミスなどは減ったと思われる。

さらに、スタッフの少ない大学がテキストを用いる

ことが可能になった。

### 7.2 課題点

課題点としては活用方法の未確立があげられる。共通テキストを作成することはできたものの、テキストを講室内でどのように活用していくか、講座後に受講生にどのように使ってもらいたいかなど、テキストの作成で手一杯に終わってしまった。

また、最終的にスケジュールが大幅に遅れ、慌ててしまったところもあり、誤字脱字などの細かいミスはまだ見られたので、そこも今年度は修正をしていきたい。

### 8. 今後の展望

2018年度で出た課題として、7.2でも述べたように活用方法の未確立があげられる。そこで2019年度は細かいテキストの修正を行いつつ、活用方法の検討に力を入れて東海で会議を行っていく。

またテキスト共通化を試みたことで、データの共有をし、比較などを行うことで、よりPC講座の品質をあげられる。昨年のPCカンファレンスで報告した他大学とのデータ共有については、昨年度テキスト作成の負担が大きいく行うことができなかった。データ共有をすることで、自大学内では気づけなかった意見やアイデアなどを知ることができ、他大学の良いところを取り入れることができるためよりよい講座ができると考えられる。そうして、東海の大学生協のPC講座の品質を上げていけたらと思う。

来年のPCカンファレンスでは、テキスト共通化における報告をプロジェクトとして成果を発表しようと思う。